



大学創立130年
同窓会設立85周年



ともに歩む慈恵



高木岬



変わらない慈恵精神——
高木兼寛が築いたスピリットは
130年経った今も、
慈恵教職員のこころに
脈々と息づいています。

The Jikei University
since 1881

週刊
ダイヤモンド
2010年7月24日号から抜粋

学校法人 慈恵大学
〒105-8461 東京都港区西新橋 3-25-8
Tel:03-3433-1111(代) <http://www.jikei.ac.jp>

「病気を診ずして 病人を診よ」 キャンパスに息づく 創設者の精神



東京慈恵会医科大学

研究を重視するあまり患者と真正面から向き合わない
当時の「医風」を改良することが、創設者・高木兼寛の思いだった。
以来130年、東京慈恵会医科大学は今も「患者本位」「人間性重視」の教育を貫く。
先端設備を生かした高度なスキル教育と、医療の現場と触れ合う実践教育を通して、
先進医療や地域医療で活躍する医療従事者がここから育っていく。

交通 通至便の都心の一角に病
院とキャンパスを持ち、
多くの著名人も訪れる、私立医
大御三家の一つ——「慈恵医
大」の略称で知られる東京慈恵
会医科大学について、一般の人
はそんなイメージを抱いている
ことだろう。

名門であることは間違いない。
日本の私立大学のなかで最も古
い単科医科大学。開学は130
年前、卒業生
1万2000
人、現役医師
は6000人
に上る。
「かつては教
授や附属病院
の医師のほと



東京慈恵会医科大学 栗原 敏学長



西新橋キャンパスに隣接する21階建ての中央棟（左）は、最新の手術室、病棟を擁する。1930年竣工のF棟（右）はナイチンゲール病棟に倣い各部屋に窓が設けられ必ず採光できるように設計された。

んどを卒業生で占め、オール慈
恵」という言葉もあったほど。
しかし今はよりオープンになり、
指導者には学外出身者
が多くなった。卒業生
も開業医よりは勤務医
が多くなっています」
と言うのは栗原敏学長
だ。毎週月曜日は学生
たちと一緒にランチの
テーブルを囲むのを楽

しみにしている。
「華やかなイメージとは裏腹に、
医学を究めたい、医師・看護師

として社会に貢献したいという
真剣な思いを持つ若者が多い」
（栗原学長）と、学生の気風を
語る。
「医師と看護師は
車の両輪」
チーム医療を
現場で学ぶ

それもそのはず。「病気を診ず
して病人を診よ」と患者本位の
姿勢を貫き、「医師と看護師は車
の両輪の如し」と、現代のチー
ム医療に通じる考え方を日本で
初めて提唱した創設者・高木兼
寛の建学の精神は、今もキャン
パスのすみずみまで息づいてい
るからだ。

「兼寛は、研究のための対象の
ようにしか患者を見ない当時の
風潮に対して、患者を中心とし
る医療の実践に努めた人。英国
留学の経験から、医師と看護師
の協働の重要性も訴えた。本学
が今、医学部に医学科と看護学
科を併設するのも、創設者の考
えに基づくものなのです」（栗
原学長）

狭い専門性に閉じこもること
なく、疫学的研究方法を含めた
合理的で幅広い知見から、医療
全体をとらえる発想は、高木兼
寛独自のものだった。

それを今、かたちにしている
のが、医学科の6年間を通して、

れる。

遺伝子治療を目指すDNA医
学研究所やアイソトープ実験研
究施設を擁する総合医科学研究
センター、バーチャルリアリテ
イ技術の医療現場への応用を目
指す高次元医用画像工学研究所
の存在も頼もしい。こうした先
端施設の研究と設備を、授業に
活用できる点も、慈恵医大で学
ぶメリットの一つだ。

一方で、医療従事者は観念で
はなく、手足を動かす実践の人
でなければならぬ。慈恵医大
が、学生や卒業生の診療技能修
得に当たって、シミュレーショ
ン教育施設の設置など、現代
の学習理論に基づいたスキ
ル向上に力を入れるのはそ
のためである。

チーム医療については、
大学5年生が参加する「チ
ーム医療構築ワークシヨッ
プ」の授業が興味深い。学
生、医師、研修医、看護師、
その他の医療従事者が、一
つのテーマに
ついて意見

「今、地域および診

療科による医師の
偏在は大きな社会
問題。医
科大学や
医学生はその問題に真
正面から向き合わ
なくてはなりません。
まず医師の総合
的診療能力と研
究能力を高める
必要があります。そのためには
先進医療や地域の中核病院とし
ての実績がある四つの附属病院
での実践を通して、幅広い人間
性と高度な技術を持つ医師・看
護師が育っていくのを期待して
います」と、栗原学長は進化す
る医療現場においても変わらぬ
「慈恵精神」を受け継ぐ後輩の
育成を目指している。



患者と向き合い、 病気の原因を疫学的に探った 日本近代医療・医学史における 高木兼寛



慈恵医大創設者の高木兼寛
(1849-1920)

明治14（1881）年、英国セント・トーマス病
院医学校への留学から帰ったばかりの海軍軍医・高
木兼寛は、当時の日本の医学界がドイツ医学一色で
学理優先になっているのを憂い、臨床を重視し、患
者本位の医療を進めるために、医学校「成医会講習
所」を東京・銀座に開いた。これが現在の、東京慈
恵会医科大学の前身だ。併せて高木は、貧しい人び
とのための施療病院（現在の附属病院）や、英国滞
在中に訪問したナイチンゲール看護学校に倣った看
護婦教育所（現在の慈恵看護専門学校）も創設して
いる。日本における近代看護教育の創始者の一人で
もある。

高木は患者をよく診ること、その心の痛みをよく
理解することを重んじ、医療従事者のモラルや態度を厳しく指導した。自ら校門
の前に立ち、医学生の服装をチェックしたというエピソードが残されている。

一方で高木は、明治期には伝染病の一種とされていた「脚気」を研究し、栄養
の偏りに原因があるという説を唱えたことで、医学論争史にもその名を残してい
る。当時、脚気は軍隊でもまん延しており、多くの死者が出ていた。高木の研究
は海軍練習艦を用いた実証的なものだったが、国内の医学会主流には受け入れら
れなかった。しかし海軍では、「白米中
心で栄養バランスの偏った食事が脚気
の原因」という高木の説を受け入れ、
タンパク質の豊富な洋食や麦飯を採用
することで、脚気の撲滅に効果を上げ
た。こうした兵食改善運動のなかから
「海軍カレー」が生まれ、脚気と食事
の係に着目した疫学的研究の延長線
上に、脚気の真の原因であるビタミン
の発見があった。



明治17（1884）年、高木が自らの仮説
を実証すべく実験航海に使った海軍練習艦
「筑波」。

CAMPUS DATA

東京慈恵会医科大学

医学部 医学科
看護学科
大学院 医学研究科博士課程
医学研究科看護学専攻修士課程

西新橋キャンパス
〒105-8461
東京都港区西新橋 3-25-8
TEL 03-3433-1111（大代表）

国領キャンパス
〒182-8570
東京都調布市国領町 8-3-1
TEL 03-3480-1151（大代表）

http://www.jikei.ac.jp/univ/

オープンキャンパス

information

【医学部医学科】（西新橋キャンパス）

8月28日（土）13：30～（中央講堂）
9月25日（土）13：30～（中央講堂）
10月23日（土）13：30～（大学1号館講堂）

【医学部看護学科】（国領キャンパス）

8月3日（火）13：30～
8月4日（水）13：30～